

城北川

街を流れる、一級河川(城北川の概要)

私たちの街を静かに流れている城北川を歩いてみた。城北川は大阪市の東部、城東区・旭区・都島区、35.6万人が暮らす3つの区を、70年以上黙って流れている。

城東区今福2丁目の寝屋川右岸から、都島区友淵町の旧淀川左岸に至る人工の水路である。全長は5.6キロメートル。旭区2.2キロメートル、城東区2.1キロメートル、都島区1.3キロメートル。川幅は40メートル、平均水深は3.5メートル。

昭和15年(1940)、城北運河は完成した。大阪市内で開削された最後の運河(臨海部を除く)である。それから45年後の昭和60年(1985)、「城北運河」は一級河川「城北川」に指定された。工業製品や原材料を船で運んだ生産運河から、人と生きものがいっしょに暮らす快適河川へ…。時代が移り、その役割も変わってきた。

住民のための快適な水空間づくりが始まり、工場の



写真■城北川旭区区域の最下流にある西浪橋公園



写真■現在の城北川(中葦橋から北を見る)



写真■一級河川の標識
大阪府の管轄 新森小路橋付近

郊外移転や国や大阪府の補助により護岸工事が進められた。

城北川は、ふるさとの川・モデル河川に指定され、『うるおいとふれあいのある水辺』に生まれ変わった。

水面を眺めながらウォーキングやランニングをする遊歩道、川に隣接した彫刻モニュメント広場、滝の流れと水の音を演出した清流広場、護岸の階段からの魚釣り、恋人たちの語り。

水とたたかい、水を生かし、水とともに生きてきた大阪。城北川は、旭区未来まちづくりを夢みながら、きょうも微笑んでいる。

運ぶ河から、歩く川へ (城北川の歴史)

城北運河(現:城北川)は、第二次世界大戦開戦の翌年の昭和15年(1940)12月に寝屋川と大川を結んで開削され、流れはじめた。70年間の歴史を年代順に記述してみたい。

大正時代(1912~1926)	この周辺は集落が点在する、のどかな田園地帯が広がっていた。
昭和3年(1928) ~世界的な不景気~	「城北運河」都市計画が決定。大阪東部の開発として、区画整理とともに、寝屋川以北の工場地帯の開発と運河計画が作成された。
昭和10年(1935)4月	大阪市による開削工事が開始された。
昭和15年(1940)12月17日 ~日独伊三国軍事同盟締結~	5年8ヶ月の年月を経て、大阪最後の都市部運河「城北運河」全長5.6キロメートルが完成した。
昭和30年代後半(1960~1964) ~東海道新幹線開通~	河川地域の発展による工場廃水、住民の生活廃水の増加により、最悪の汚濁水質が測定された。
昭和41~45年(1966~1970) ~高度経済成長期~	工業、生活廃水の運河流出をなくす下水道幹線の設置。河川公園、遊歩道が整備された。阪神高速道路守口線の工事が始まり、完成した。
昭和45年(1970) ~大阪万博開催~	大阪湾の潮の干満にあわせて、水門を開閉。水質の悪い寝屋川の水を廃し、水質の比較的良好い大川の水を導入。大幅に水質改善された。
昭和50年(1975)5月 ~経済安定成長期~	城北川の左右、両岸に遊歩道が完成した。
昭和60年(1985) ~阪神タイガース優勝~	城北運河から、1級河川「城北川」に指定された。
昭和62年(1987) ~バブル経済崩壊~	『ふるさとの川・モデル河川』に位置づけられた。



写真■開削時の城北運河と旭区紹介
(夕刊大阪新聞社 昭和13年(1938))
資料提供:大阪市史編纂所



写真■工場が立ち並ぶ昭和40年頃の城北運河